

研究主題「感じたり、考えたりしたことを表現する力の育成

－「読むこと」から「書くこと」へつなげる指導法の工夫－

教職員研修センター研修部専門教育向上課

中野区立鷺宮小学校 教諭 橋本誠之

I 研究のねらい

1 研究主題設定の理由

これからの情報化、価値観の多様化が進む現代社会において、児童がよりよく生きていくためには情報を正しく理解するだけではなく、自ら感じたり、考えたりしながら読む力が求められている。中央教育審議会の審議経過報告では、「子どもの社会的自立のために必要な力として、「読むこと」に関連付けた形で、「書くこと」を充実していく必要がある。」と示されている。

そこで、正確に読み取った内容を基に感じたり、考えたりしたことを表現する活動に取り組むことで、感じたこと、考えたことを表現する力を育てることができると考える。

本研究では文学的文章を読むことを通じて、叙述に即して正しく読み取り、そのことを基に、登場人物の生き方や自然などの美しさに共感しながら読む方法を工夫する。

このことにより、作品が児童にとって身近なものとなり、豊かに感じたり、考えたりすることができ表現することにつながる。

2 研究仮説

文学的文章の読解を通して、読み取った内容を自分の経験や知識と照らし合わせることで、感じたこと、考えたことを明確にすることができるだろう。そのことを目的に応じた文章に書き表す一連の学習過程や学習活動の工夫をすれば、自ら感じたり、考えたりしたことを表現する力が育てられると仮説を立てた。

II 研究の内容と方法

1 基礎研究

- (1) 小学校学習指導要領解説国語編の読むこと、書くことにおける指導事項の分析
- (2) 読解力育成に関する先行研究（文献・論文）
- (3) 国語力に関する分析（文化審議会答申 平成16年2月3日）
- (4) 読むこと、書くことについて各社国語教科書の分析
- (5) 教育課程実施状況調査結果、OECD学力調査結果の分析

2 実践研究

- (1) 期 間：7月上旬～中旬 ②対象：中野区立鷺宮小学校 第4学年1組 児童21名
- (2) 単元名：お気に入りの本を友達にすすめる紹介メッセージを書こう。
- (3) 教材名：文学的文章「夏のわすれもの」
- (4) 内 容：（読むこと）物語の中心場面をとらえ、登場人物の気持ちを感じたり、考えたりする。
（書くこと）文章の組立てを考えながら、物語を紹介するメッセージ文を書く。

3 基礎研究からの考察

読解力とは、文章の内容を理解する力だけではなく、正しく読み取ったことを基に、感じ、考えながら読み深め、表現することまで含めた力であることが分かった。

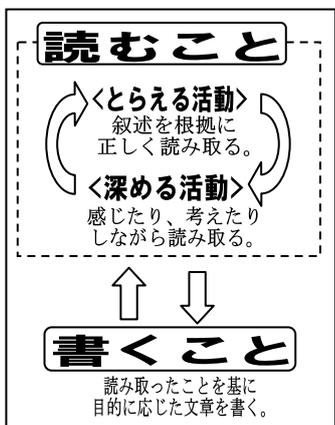
そこで、この読解力を育てるためには、児童が文章の読み取りを通して、主体的に感じたり、考えたりした自分の思いをもつことができる読み方を工夫する。また、児童が主体的に読み深めたことを整理し、明確にするための表現する場を、意図的、計画的に学習過程に位置付けることで、自分の感じたこと、考えたことをもち、表現する力が育成できると考えた。

4 研究主題に迫るための手だて

(1) 「読むこと」から「書くこと」へつなげる学習過程の工夫

児童が文学的文章を主体的に感じたり、考えたりしながら読み深めたことを書き表すために「読むこと」から「書くこと」へつなげる学習過程を工夫した。2つの言語活動をつなげる手だてとして、読むことを「とらえる活動」「深める活動」の2つに分け、意図的、計画的に位置付ける。

「読むこと」から「書くこと」へつなげる学習過程の構造図



このことにより、豊かに感じたり、考えたりした読みができるようになった。初めにとらえる活動では、正しく内容を理解する。次に深める活動では、とらえる活動で読み取ったことを基に、読み手のもつ経験や知識と登場人物の言動や気持ちとを比べたり、結び付けたりしながら読む。この2つの活動を繰り返し行うことで、読み手は作品を身近なものに感じ、自ら感じたこと、考えたことを膨らませた読み深めができるようになった。このような読むことの学習過程を工夫することで、児童は伝えたい思いをもち、すすんで書くことに取り組める。

さらに書くことで膨らんだ自分の感じたこと、考えたことを整理し、明確にすることができると考えた。これらの「読むこと」から「書くこと」への一連の流れを学習過程に位置付けることで、主体的に感じたことや考えたことを表現する活動に取り組めると考えた。

(2) 「読む」から「書く」へつなげる学習活動の工夫

① 目的意識、相手意識を明確にするための紹介メッセージの工夫

児童が目的意識、相手意識を明確にもち、主体的に「読むこと」「書くこと」に取り組むために、物語の楽しさなどを紹介し、自分が読んで感じたこと、考えたことをメッセージとして書いて、友達に伝える活動を設定した。

② 「読むこと」を「書くこと」に生かすために付せん紙の活用

読むことでは、叙述に即して読み取ったことを付せん紙に書き込む。さらに叙述を根拠とした読み取りを基に感じたり、考えたりしながら読み深めたことを付せん紙に書き込む。書くことでは、読むことで書き込んだ付せん紙を活用して、文章の構成や内容の精選を行う。自分の感じたことや考えたことなどを紹介メッセージに生かすことができる。

③ 物語を身近に感じ、主人公に共感しながら読むための工夫

児童は、主人公の気持ちを表す叙述と自らの経験や知識と結び付けたり、比べたりする活動を設定した。このことで物語を身近にとらえ、主人公の言動や気持ちの変化などについて深く感じたり、考えたりすることができると考えた。書き込んだ付せん紙は、ワークシートに貼る位置を工夫しながら、気持ちの変化をとらえることに活用する

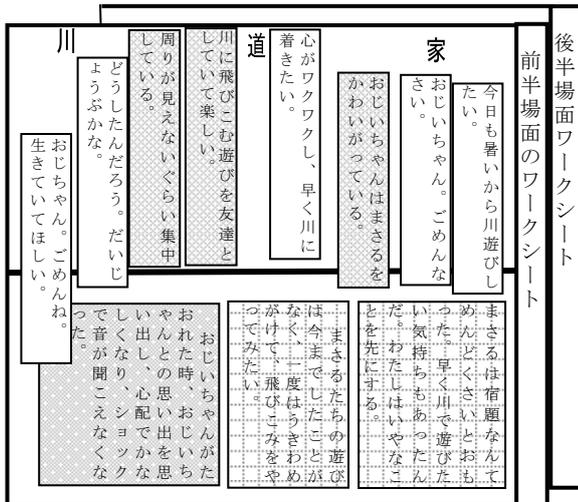
5 検証授業

(1) 単元計画

導入	1時	紹介メッセージ文の特徴をとらえ、読むこと、書くことのめあてを立てる。
読む活動	2~7時	・物語文「夏のわすれもの」の主人公の気持ちの変化を読み取り、文章の中心をとらえる。 ・主人公の気持ちと自分の経験を結び付け、物語を身近に感じ、考えながら読み深める。
書く活動	8~10時	読むことで叙述から分かったこと、感じたこと、考えたことを書き込んだ付せん紙を使い、自分の思いが明確になるような文章構成を立て、物語の良さが伝わる紹介メッセージを書く。

(2) 「とらえる活動」から「深める活動」で、叙述を身近に感じながら正しく読む

とらえる、深める活動で作成したワークシート



左図は、付せん紙を貼ったワークシートである。上段には、語や文を根拠に主人公の気持ちと場面の様子について書き込んだ付せん紙を貼り、下段には、上段の読み取りから分かったこと、感じたり、考えたりしたことを書き込んだ付せん紙を貼った。

児童は書き込んだ付せん紙を基に、主人公の気持ちの変化について話し合いながら、正確に読み取る活動や深める活動を行った。深めた自分の読みを付せん紙に書き加えたり、付せん紙の位置を変えたりしながら読み深めていった。

後半場面は、主人公の言動だけに共感する付せん紙が多かったため、中心となる言葉「麦わらぼうし」と「ひまわり」に着目し読み取りを行った。

2つの言葉のつながりを考えることで、主人公の立場に立つことができ、根拠となる叙述について感じたこと、考えたことを交えながら、読み取りを行うことができた。(詳細は下図参照)

とらえる活動 文と文の関係をおさえながら、叙述に即して正しく読む

気持ちが大きく変化する叙述「にぎやかだった～音が消えた。」について、話し合いの中で出された根拠となる叙述を基に正しく読み取る。

A児の最初の読み	話し合い	話し合い後のA児の読み
<p>にぎやかだった ふんすい岩から 音が消えた。</p> <p>まさし兄ちゃん の声を聞いてみ んながどうした んだろうと思っ てだまったから、 音が消えました。</p>	<p>友達の意見 ※太字は叙述 細字は意見</p> <p>「声」ではなく、「音が消えた。」と書いてあるから、全員がだまったとは思わない。</p> <p>「遠くで救急車のサイレンの音がなっていた。」全員何か事件が起こったのだと思った。</p> <p>「川遊びに、たちまち夢中になった。」全員が遊びに集中しているから、まさし兄ちゃんの話は聞かないのだと思う。</p> <p>私は、まさるだけが、びっくりして急に音が聞こえなくなったのだと考える。</p>	<p>周りの友達はずっと遊んでいる。でも、まさるだけは、「じいちゃんが大変だ」という言葉で驚いて音が聞こえなくなった。まさるとしてじいちゃんが大切な人だから、とてもびっくりしたことが分かる。</p>

A児は、友達が根拠にあげた叙述から、「言葉への気付き」「周りの様子からの気付き」を基に、自分の読み取りを修正した。「まさるだけが聞こえない。」という意見から、家族の関係についても考えることで、A児は正しく読み取ることができた。

深める活動 読み取ったことと自分の経験とを結び付け、共感しながら読む

心情を象徴的に表す表現「音が消えた。」について、自分の経験を出し合うことで読みを深めた。

「本を読んでいて、集中すると周りの音が聞こえなくなった。」などの自分の経験を出し合ったが、主人公の気持ちと結び付かず、ただ「音が消えた。」という表現の解釈をしてしまった。

そこで、とらえる場面で「音が消えた。」時のまさる気持ちについて考えると、「不安」や「驚き」の気持ちが分かり、再度自分の経験と結び付けて考えた。

「お父さんが車の運転中、交通事故にあったとお母さんから聞いた時に、あまりにショックで音が聞こえなくなりました。」と読み取りに即した経験を結び付けることができました。

これらのことから、A児は、主人公と家族のつながりの強さから、「不安」な気持ちになり、「音が消えた。」と深く読むことができた。

「感じたり、考えたりしたことを表現する力の育成
 「読むこと」から「書くこと」へつなげる指導法の工夫」

(3) 「読むこと」を「書くこと」に生かすために付せん紙の活用

書く場面で文章構成するために使ったワークシート

終わり	中	はじめ	文章構成ワークシート
すめる文 相手にす く言葉 心にひび	る場面 ・感想 ・経験 ・場面 ・登場人物	あらすじ の紹介 登場人物	文章構成ワークシート
心やさしくなれる物語です。ぜひ、みなさんも読んでみてください。	ひまわり畑が悲しいほどかやいてい た。 「お父さんが車の 運転中、交通事故に あつたとお母さん から聞いた時に、あ まりにショックで 音が聞こえなくな りました。」 「お父さんが車の 運転中、交通事故に あつたとお母さん から聞いた時に、あ まりにショックで 音が聞こえなくな りました。」	だれかが、たおれたのか な。だいいょうぶかな。 ふんすい岩から音が消えた 「お父さんが車の 運転中、交通事故に あつたとお母さん から聞いた時に、あ まりにショックで 音が聞こえなくな りました。」	まさるは勉強が りも家族との約束ま りも遊ぶことが大 好きで、遊びが一 番 大好きです。 「お父さんが車の 運転中、交通事故に あつたとお母さん から聞いた時に、あ まりにショックで 音が聞こえなくな りました。」

書くことでは、物語の楽しさや自分の感じたこと、考えたことなどを友達に伝える紹介メッセージを書く。紹介メッセージの文章構成では、読むことで書き込んだ付せん紙の中から、紹介メッセージに必要な付せん紙を選ばせた。児童は付せん紙の取捨選択や並び替えなどの操作を通して、伝えたいことが明確になるように文章構成を考えた。

付せん紙を選ぶ時は、導入時にまとめた紹介メッセージの特徴の視点から選ばせた。

文章構成から紹介メッセージに書く時は、付せん紙に書き込んだ文を基に、文章にまとめていった。

読み取りで書き込んだ付せん紙を活用するため、書くことが見付からないという児童は少なかった。また、内容を簡単にまとめたり、中心となる場面を詳しく書いたりする書き方には個人差があり、一人一人の個性が発揮された。

感じたり、考えたりするための視点を与え、分かったこと、感じたことや考えたことを付せん紙に書き留めることで、紹介メッセージの内容を充実させることができ、「読むこと」から「書くこと」へつなげることができた。

検証授業で書いた児童の作品（紹介メッセージ文）

夏のおすれもの紹介メッセージ 主人公は遊ぶことが大好きな男の子まさるです。まさるは、今日もやさしいおじいちゃんの手伝いもせず、また、川へ遊びに行ってしまう。川につくと、まさるはふんすい岩に登って、さっそく得意の「んぎょ」を飛ばす。いつかまさるがムササビ飛びをする直前、救急車のサイレンが鳴って……	私は、何でいきなり!!とびっくりしました。ぼろぼろとひまわり畑で泣くまさる。いったい何があったのでしょうか。私のおばあちゃんはいないので、おじいちゃんに会いに行くとなぜか、家が大きくなったような気がします。私はやさしいおじいちゃんとおしゃべりすることがとても好きです。この物語は、面白い場面や悲しい場面がありあきません。読み終わったあと、心やさしくなります。ぜひ、読んでみてください。
---	--

Ⅲ 結果と考察

- 1 「とらえる活動」から「深める活動」を意図的、計画的に設定することで、「麦わらぼうしがさみしそうだっただ。」や「ふんすい岩から音が消えた。」という心情を象徴的に表す表現を、叙述を根拠に豊かに感じたり、深く考えたりすることができた。
- 2 自分の経験と結び付けながら読むことで、物語を身近に感じることができ、主人公の立場に共感しながらも、正確に内容を読み取ることができた。
- 3 自分の考えをもてなかった児童も「読むこと」を充実させることで、自ら感じたり、考えたりしたことを紹介メッセージの書式で表現することができた。

Ⅳ 今後の課題

- 1 児童が叙述を根拠に自分の感じたこと、考えたことがもてるように、今後もとらえる活動での具体的な指導・支援の充実を図る必要がある。
- 2 付せん紙に書き込んだ文章を生かし切れず、伝えたいことが明確な文章に表せない児童がいた。今後は、言葉を文章に書き表すための指導の工夫に取り組む必要がある。
- 3 自分の知識や経験と比べたり、結び付けたりしながら読む力については、指導段階があると考えられる。今後は、段階的・系統的な指導計画の開発を行っていく。

I 「読むこと」から「書くこと」へつなげる指導の工夫

1 目的意識、相手意識を明確にする紹介メッセージの活用

紹介メッセージとは、児童が主体的に「読むこと」「書くこと」に取り組むように、物語の盛り上がる場面を効果的に紹介し、自分の感想も交えながら、物語をすすめる文です。今回は、紹介メッセージを使った授業例を紹介します。

(1) 紹介メッセージ2種類のモデルを提示

単元の導入で、物語「おじいちゃんの口笛」（ウルフ・スタルク作）を紹介する2種類のモデル文を児童に提示します。モデルAは感想・まとめ等を含む文、モデルBは粗筋だけの文です。それらの文を比べることで、内容や表現の違いに気付き、「読むこと」「書くこと」のめあてを作ります。

<p>紹介モデルA おじいちゃんの口笛</p> <p>主人公は、おじいちゃんを知らない男の子ベツラです。ベツラは、ぼくもおじいちゃんが好きと老人ホームにいき、ニルスおじいちゃんとお会いします。ベツラはニルスおじいちゃん、明るく素直なベツラにひかれます。ベツラはニルスおじいちゃんの孫になります。ニルスおじいちゃんは、ベツラを本当の孫のようにかわいがりました。</p> <p>ベツラはニルスおじいちゃんに教わった口笛で演奏するのプレゼントをしようと学校から帰るときもほつべたをばんばんにふくらませながら、一生けんめい練習します。</p> <p>私は、口笛の演奏を聞いた時のニルスおじいちゃんのうれしそうに喜ぶ顔が目につきました。ベツラは、ニルスおじいちゃんが好きなんだなと思いました。</p> <p>私は、低学年のころ、いつもつりに連れて行ってくれた自分のおじいちゃんのことを思い出しました。</p> <p>「せつかく口笛が吹けるようになったのに。」と目からみるみる涙があふれ泣きじゃくるベツラ：。</p> <p>ベツラの口笛による演奏はニルスおじいちゃんに届くのでしょうか。</p> <p>ベツラとニルスおじいちゃんがおたがいのことを思い、大切にしている場面などがあり、心がやさしくなる物語です。ほかにも思わず、ふつとふきだしてしまう会話やびつくりするできごともあり、楽しく読めます。</p> <p>ぜひ、一度読んでみることをおすすめしたい本です。いっしょに、ベツラについてお話ができたらうれしいです。</p>	<p>紹介モデルB おじいちゃんの口笛</p> <p>ウルフの親友ベツラは、ウルフとおじいちゃんの話の聞いて、おじいちゃんが好きと思えました。老人ホームに行き、ニルスをベツラは自分のおじいちゃんを決めました。</p> <p>ベツラは、ニルスさんからコーヒートとシナモンパンをもらいました。</p> <p>次の日もウルフとベツラは老人ホームにいった。ニルスさんと公園へ行き、たこを作りました。</p> <p>次の日もいくとニルスさんはベッドにねていた。元気がないから、サクランボがりに行きました。</p> <p>ベツラはおじいちゃんから口笛のやり方を教わった。ふけるようになったので、ニルスさんに会いに行つた。</p> <p>でも、ニルスさんはなくなっていました。おもしろいのでぜひ、読んでください。</p>
--	--

(2) モデル文の比較から児童がとらえた5つの特徴

モデル文の比較から紹介メッセージの特徴をとらえ、読み手に分かりやすく伝える紹介メッセージを書くためのめあてを考えました。

- ① 物語のもり上がる場面を見付け、物語の続きが知りたくなるような表現（「～でしょうか。」「・・・」等）の工夫を行い、読み手を引き付ける。
- ② 物語の粗筋は、簡単に書く。
- ③ 物語の良さを伝えるための感想を書く。
- ④ 自分の経験と比べたり、結び付けたりした感想を書く。
- ⑤ 友達に物語を勧める文章を書く。

(3) 読むことのめあての作成

紹介メッセージを書く時の工夫①～⑤の中で、①の物語のもり上がる場面をとらえること、③の物語の良さを伝える感想を書くことを以下のようなにして読むことのめあてとしました。

- ①の場合 もり上がる場面をとらえるためには、主人公の気持ちが大きく変わる場面をとらえればよいと意見が出され、主人公の気持ちの変化をとらえることを読むめあてにしました。
- ③の場合 物語の良さを伝える感想を書くには、叙述の中で、心に残る一文を基に感想を書けばよいという意見から、心に残る一文をとらえることも読むめあてとしました。

「感じたり、考えたりしたことを表現する力の育成
 -「読むこと」から「書くこと」へつなげる指導の工夫-

2 付せん紙を使った「読むこと」から「書くこと」へつなげる指導法

「読むこと」「書くこと」を一連の流れで行うために、付せん紙の特性を活用します。

本單元では、付せん紙の特性の1つである自由に貼ったり、剥がしたりできること生かし、「読むこと」「書くこと」の2つの言語活動をつなげます。

また、もう1つの特性である色や大きさの多様性を活用し、読むねらいに合わせて付せん紙の色を分けます。さらに「叙述から読み取ったこと」と「自分が考えたこと、感じたこと」等を付せん紙の大きさで区別する等の工夫をします。具体的な学習活動の流れは、表1の順序で行いました。

表1「読むこと」から「書くこと」へつなげるための主な学習活動表

順序	言語活動	主な学習活動
1	読むこと①	叙述から読み取ったこと、自分の感じたこと、考えたことを付せん紙に書き込む。
2	読むこと②	付せん紙をワークシートに貼り、叙述のつながりから気持ちの変化をとらえる。
3	読むこと③	友達との話し合いを基に、付せん紙の書き加えや修正等で増減する。
4	書くこと①	「読むこと」で書き込んだ付せん紙を内容の精選や文章の構成に活用する。
5	書くこと②	付せん紙に書き込んだことを基に、紹介メッセージを書く。

付せん紙の特性

付せん紙は色や大きさ等多種多様である。また、その使われ方も様々で作品への一言感想や資料収集におけるメモ書き等用途に合わせて工夫されている。

付せん紙がよく使われる理由には、気軽に記入できること、整理しやすいこと、貼ったり、剥がしたりできること等が挙げられる。

さらに図を用いて、指導のポイントを交えながら、詳しく説明します。

(1) 教科書にサイドラインを引き、分かったこと、感じたこと、考えたことを付せん紙に書く。

図1教科書を使った学習活動

① 叙述にサイドラインを引く

サイドラインは、様子や気持ちが分かる語や文に引かせます。サイドラインを引く時には、語や文をしぼって短く引かせます。

文章全体に引いてしまう児童や全く引けない児童には、様子を表す言葉や会話文に着目することを助言し、サイドラインを引かせます。

② 付せん紙に書き込む

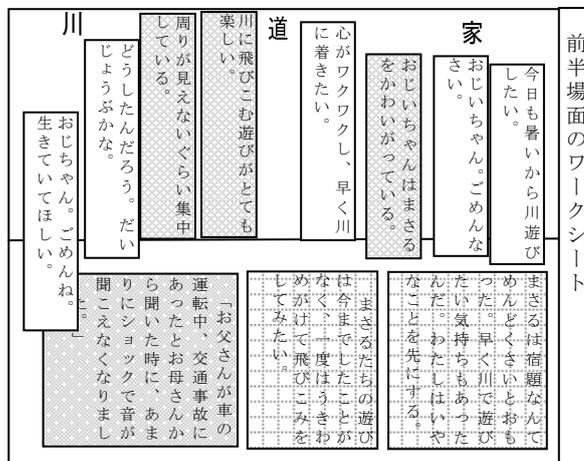
サイドラインを引いた語や文から、分かったこと、考えたこと、感じたことを付せん紙に書き込みます。付せん紙に書き込むときは、一文で書き込ませるようにします。

(2) 付せん紙をワークシートに貼り、気持ちの変化や叙述の関係をとらえる。

物語のもり上がる場面をとらえるために、登場人物の気持ちが大きく変化する場面を読み取ります。書き込んだ付せん紙を工夫しながらワークシートに貼ります。

作業① ワークシート上段には、登場人物の気持ちや場面の様子から読み取ったことを書いた付せん紙（中型）を貼ります。付せん紙を貼る時は、上下の位置を工夫して、主人公の気持ちが視覚的に表せるようにします。そして、付せん紙が作り出す曲線から、主人公の気持ちの変化をとらえ、もり上がる場面をとらえることができます。

付せん紙を貼り付けたワークシート



作業② ワークシート下段には、上段の読み取りを受けて、場面全体から自分の感じたこと、考えたこと等を書き込んだ付せん紙（大型）を貼ります。上段の叙述を根拠とした読み取りを基に自分の考えをもたせたり、自分の経験と比べたりすることで、読み深めていきます。

また、付せん紙同士を矢印でつないで関連付けたり、複数の付せん紙を線で囲んでまとめたりと、自分の読み取りの深まりに応じて、様々な工夫をしながら主体的に読み進めることができるのも、この学習活動の特徴です。

(3) 友達との話し合いを基に、付せん紙の書き加えや修正等で増減する。

付せん紙に書き込んだ自分の意見を基に、話し合いを行う。話し合う時には、自分の意見の根拠となる叙述を確認させるため、拡大した本文をあらかじめ黒板に貼り、本文と照らし合わせながら行うとよい。話し合いを通して、児童は新たに自分の感じたこと、考えたことを付せん紙に書き加えたり、今までの読み取りを修正したりし、付せん紙を増減します。

(4) 目的に応じて付せん紙を選材したり、並び替えたりする。

文章構成ワークシート

終わり	中	はじめ
		登場人物の紹介
心やさしく読んだ物語です。ぜひ、	東は守れなかつたか、おじいちゃん、ごめんね。おじいちゃん、ごめんね。おじいちゃん、ごめんね。	主人公まさるは、外で遊ぶことが大好きな男の子です。今日も近所の秋川で飛び込みをして遊んでいます。

① 付せん紙の選び方

読むことで付せん紙に書き込む時には、あらかじめ、内容に応じて付せん紙の色分けをしています。目的に応じた文章を構成する場合、付せん紙を選ぶことが容易です。また、児童には色の指定や枚数を制限することで、書くことの指導が一斉に行えることも特徴です。

② 付せん紙を並び替える

相手や目的に応じた文章を書くために、選んだ付せん紙の並び替えを行います。文章の構成では、自分の感想や意見が、効果的に伝えられるように工夫することを意識させて、並び替えさせます。

3 紹介メッセージ（夏のわすれもの）作品

作品は、字数 400 字～800 字以内で書きました。

夏のわすれもの紹介メッセージ
主人公は、毎日川へ行って遊んでばかりいるまさるです。まさるは宿題をやるうとしても、やる気がなくなつて、いつも川へ行ってしまします。まさるはおじいちゃんの草取りの手伝いをしません。でも、おじいちゃんがきらいだから、手伝いをしないわけではないのです。まさるは遊びたいから手伝いをしないのです。私は、草取りや、植物を育てることが好きなので、まさるとは反対です。でも、まさると同じところは水遊びが好きなのところです。まさるの友達もみんな川遊びが大好きです。私も川遊びはプールより大好きです。私はこの物語を読んで、心がぽかぽかと温まるお話でした。この本を読んでいいと思つたら、ぜひ、友達に紹介してくれるとうれしいです。感動する話なので読んでみてください。

夏のわすれもの紹介メッセージ
主人公は、おじいちゃんが大好きな男の子のまさるです。まさるは、宿題がまだ残っているのに、やる気になれません。もうがまんできなくなつて、川へ飛び出してしましました。この後の悲げきも知らず。川では、友達が飛びこみをして遊んでいました。まさるもにん者飛びで川に飛びこみます。ダイヤのようにしぶきが光り、まさるのきん肉がキューンとちぢむのがわかります。楽しんでると、となりの家のまさし兄ちゃんがおそろしい顔で、「まさる、じいちゃんが大変だ。」といいました。おじいちゃんのぼうしをかぶつて道に出ると、元気に太陽に向かって咲いているひまわり畑が、まさるの目には悲しく見えました。ぼくはこの本を読んで、目のおぼくがあつくなりました。まさるがおじいちゃんを大切にしている場面があり、家族を大切にしている場面が伝わりました。泣いたり笑つたり感動のお話です。ぜひ、読んでみてください。

夏のわすれもの紹介メッセージ
主人公はおじいちゃんが大好きな男の子のまさるです。おじいちゃんが大好きな草取りを手伝わずに川へ遊びに行つてしまします。ところが、その後、悲しいことが。今日もまさるは川で友達のいっちゃんやゆうじくんたちと、飛び込みをして遊んでいました。その時—となりの家のまさし兄ちゃんがかわい顔をして走つてきました。「まさる。じいちゃんが大変だ。」おじいちゃんはどうしたのでしょうか。無事なんでしょうか。わたしも、合しゆくから帰ってきた時、お父さんが、「おじいちゃんが入院したよ。」と言つたので、びつくりしました。おじいちゃんが一人で、トイレに行けなくなつたと聞き、私はとても心配になりました。だから、私はまさるの何もしたかない気持ち、よくわかります。まさるも、私と同じぐらいおじいちゃんが大好きだということがわかりました。このお話は、まさるのいろいろな気持ち、やさしい場面、悲しい場面、とても感動できるお話だから、ぜひ、読んでみてください。

夏のわすれもの紹介メッセージ
「夏のわすれもの」の主人公は、まさるです。夏休みの間も、まさるはおじいちゃんの手伝いもせず、川で遊んでばかりいました。でも、まさるは、おじいちゃんがいなくなつてはありませぬ。いつものように、まさるは家を飛び出すと、飛ぶように川へ行き、遊んでいました。まさるは、すぐに着替えると忍者飛びをして、川へ飛び込みました。そんな時に、おじいちゃんが大きな目にあつてしまします。しばらくして、となりのまさし兄ちゃんがすつとんで来て、「ここからお話が急展開していきます。ぼくは、お話を読んで、二年生のころひいおばあちゃんが急になくなつて、悲しくなつたことを思い出しました。このお話は、楽しくも悲しいお話です。ぼくは、このお話を読んで、さらに目上の人の大事さを感じ、大切にしたいこうと思つた。このお話は、人を大切に思うことを教えてくれる本です。ぜひ、読んでみてください。読んで、感想を聞かせてください。」